

【水の里の旅コンテスト 2020 応募企画】

【一般部門】

平田観光株式会社

『神々のお膝元 浦内川流域に生きる人々と水の歴史』

(観光地域：沖縄県 西表島)

【日程】	日帰り		
【実施時期】	春・夏・秋(実施時期：4/1～10/30 西表上原港欠航時は催行中止)		
【催行人員】	18名まで(最少催行人員：4名)	【お勧めする旅行者層】	14歳～
【旅行代金】	22,500円 (大人1名)	【内訳】	
		<ul style="list-style-type: none"> ・西表島往復乗船券 ・ガイド付きツアー ・昼食 エコ弁当 ・オプション・・・多言語対応ガイド同行 別途¥20,000～¥35,000(8時間) 貸切バス・・・金額はお問い合わせ下さい。 	
【企画趣旨(伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント)】			
<p>平田観光が企画・実施するのは【神々のお膝元 浦内川流域に生きる人々と水の歴史】</p> <p>浦内川は、西表島の中央部を流れる沖縄県最長の河川で、上流にはカンピレーの滝や日本の滝百選にも選ばれたマリユドゥの滝がある。河口付近にはオヒルギやメヒルギなどからなるマングローブ林が発達している。汽水域は約400種に及ぶ魚類が生息する魚類の宝庫である。また淡水域には、日本では西表島のみが生息するウラウチフエダイをはじめ、シミズシマイサキ、ヨコシマイサキ、ニセシマイサキ、カワボラの5種の絶滅危惧種が生息している。浦内川の上流一帯は聖域とされてきた。また支流の宇多良川沿いには宇多良炭坑があった。浦内川の中流沿岸にはかつて稲葉という集落があり、戦前は石炭事業が、1960年代には林業が盛んであった。稲葉では廃村になる1969年まで恵まれた水田を背景に豊かな生活が営まれ15戸程度の定住も見られた。西表島は人口2400人余りの小さな島。高齢化と少子化が進む島を未来に残したいと願う地元の人々が「八重山の旅」のプログラム作りを進める平田観光スタッフの呼びかけに立ち上がった。かつて実際に居住していたガイドが万全の準備を重ね、訪れた人々を笑顔で迎えてくれる。ツアーでは実際の体験談を交えながら当時の苦勞と工夫を解説してもらう。山や水の恵みとの関わりと、人々の知恵が詰まった暮らしの話を聞くことによって、景色の美しさを眺めるだけでなく、より深く浦内川の魅力を知り、西表島に生きる人々が重ねてきた暮らしの知恵に触れ、人と自然と水の関わり方に改めて思いを馳せるような旅を提供する。</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の責任者との連絡体制の確立。 ・現場での医師対応ができるよう、万全の体制を整えている。 ・熱中症対策。 ・新型コロナウイルス対策。 ・ツアー中、終始マスク着用。但し、トレッキング中は状況に応じマスクの着脱は現地ガイドが判断を行う。 		<p>定番のスポットを順番に回るだけのトレッキングツアーではなく、実際に生活していた地元民がそこにあるストーリーを深く理解してもらえるようにそれぞれのポイントを丁寧に解説する。</p> <p>昼食は西表島の食材にこだわり、ゴミを極力出さない事を大切に、島の環境に配慮したエコツアー弁当となっております。お弁当箱もカゴを利用し、お箸は沖縄特有のものを使用、どちらも回収します。アレルギー食も可能な範囲内で対応可。</p>	
【インバウンド対応のための工夫】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ツアー関連各事業所と連携を取り、外国人を受け入れる体制づくり ・多言語対応通訳同行(中国語、英語対応) ・英語対応アクティビティガイドの手配(可能な限り) ・多言語配布資料(ツアー行程表、諸注意事項：中国語、英語対応) 			
【企画協力(後援)機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力(後援)機関・団体名等】	【主な役割】
① 浦内川観光	ツアー全般		
【催行実績】	無		

【 行 程 表 】

1 日目	石垣発 8:30～高速船移動～西表島上原港着 9:20＝送迎車移動（約 15 分）・・現地事務所・・船着場下流出発 10:30～遊覧船～上流船着場 軍艦岩到着・・下船トレッキング・・マリユドゥの滝・カンピレーの滝・昼食・・トレッキング・・上流船着場到着～船（貸切）～稲葉集落到着・・集落見学・・船（貸切）～下流船着場到着・・送迎車移動＝上原港到着・発～高速船移動～石垣港着 <記号説明> ～船、・・徒歩、＝送迎車
------	---

【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産品など） 】

【 ポイント 1 】	【 ポイント 2 】	【 ポイント 3 】
<p><ジャングルクルーズ></p>  <p><上流船着場・雨乞い石></p> 	<p><亜熱帯の森トレッキング></p>  	<p><マリユドゥの滝></p>  
<p>「亜熱帯の森に手軽に入って行ける」</p> <p>人々を寄せ付けぬ亜熱帯の森が広がる西表島。下流船着場から遊覧船に乗船し、船長のガイドを聞きながらマングローブが両脇に生い茂る川を上流の船着場へ約 30 分進み遊覧船の折り返し地点軍艦岩へ到着。</p> <p>遊覧船下船後、軍艦岩の中央に見えるのが「雨乞い石」。</p> <p>西表島は水に恵まれた島であるが、時に大旱魃に襲われる時もある。</p> <p>そんな時、干立（ほしたて）村の人々はこの雨乞い石の上で雨乞いの歌を歌い、儀式を行った。儀式が行われるときには全身に蔓を巻きつけた神が現れたという。最後にこの儀式が行われてから 80 年近く経つ。雨乞いの歌も歌詞は残っているが歌える人はいない。</p> <p>ある人がこの石に登り、水をすくってかけるとにわかにかがやみ、雨が降り出したという。神秘に満ちた浦内川、地元ガイドが神々に纏わる話や伝承などを詳しく案内する。</p>	<p>「亜熱帯の森で森林浴」</p> <p>雨乞い石を見たあと、マリユドゥとカンピレーの滝までトレッキング開始。</p> <p>遊歩道も整備されておりますが、適度なアップダウンも有り。</p> <p>平地がほとんどなく 300m～400m 級の山々がそびえ、西表島を覆う亜熱帯の森には熱帯の森林を思わせる巨大なシダや木生シダ、着生植物やツル植物が生茂り、数多くの野生生物が生息している。</p> <p>その動植物に気軽に出会えるのが浦内川遊歩道です。マリユドゥ、カンピレーの滝までのトレッキングルート途中で見落としがち小さな動植物など、ガイドが詳しく案内をする。</p>	<p>「西表島で一番のパワースポットを訪れる」</p> <p>鬱蒼とした密林の中に突如現れるのは「日本の滝 100 選」にも選ばれたマリユドゥの滝。</p> <p>この滝を含む浦内川の上流一帯は聖域とされてきた。</p> <p>2 段になった滝が注ぐ直径約 130cm の丸い滝壺が特徴。</p> <p>滝壺には水鱒（みずさば）という怪物がいて、酉の日と寅の日人が近づくと水面に現れて暴れ回り、これを見た人は高熱を出して死んだという伝承がある。「サバ」は方言で「サメ」を意味するため、「水鱒」は淡水に住むサメのような生物であろうとも考えられている。</p> <p>また、この滝の滝壺にはワニが住んでいたという伝承もある。</p>

【ポイント4】	【ポイント5】	【ポイント6】
<p data-bbox="151 231 415 270"><カンピレーの滝></p> 	<p data-bbox="772 231 982 270"><エコランチ></p> 	<p data-bbox="1444 231 1709 270"><稲葉集落跡散策></p> 
<p data-bbox="310 1130 554 1169">「神々の座る場所」</p> <p data-bbox="134 1178 730 1436">「カンピレー」とは「カンピライ」のことで、「神々が交際する」という意味であるとされる。また、「神が座る」という意味の「カンピリ」が変化したもので、西表島の中でも第一級の聖地である。幅が広く、高低差の少ない滝が長さ約 200m にわたって続き、ダイナミックな景観が楽しめる。</p> <p data-bbox="134 1445 730 1754">あちこちにポットホールが見られる。周囲にはオキナワウラジロガシが優勢する亜熱帯林が広がる。滝周辺は広い岩場が露出し、細かな流れが周囲から入り込んでおり、その周辺にはリュウキュウツワブキなどの溪流植物が見られる。周囲の岸壁にはヤブレガサウラボシなど独特の植物が群落を作っている。</p> <p data-bbox="134 1762 730 1834">又、カンピレーの滝から先は西表島横断道となっている。</p>	<p data-bbox="919 1130 1268 1169">「自然に優しい エコ弁当」</p> <p data-bbox="756 1178 1402 1389">かれこれ 25 年前、Eco ツアーを始めた当初訪れたお客様から、「環境に配慮されたエコツアーは素晴らしいですが、弁当箱のゴミが出るのか気になる」と言われ、当時のプラスチック弁当箱から紙の容器へと改善され、その後現在のカゴ製のランチボックスが誕生。</p> <p data-bbox="756 1397 1402 1614">「生活に使えるカゴが良い」と、このツアーを提供する浦内川観光代表 平良さんが自らデザイン。発注先はインドネシアのバリ島。カゴの素材は木の幹で出来た拘りの一品。昼食の食材も、西表島で生産する無農薬黒紫米など島の食材に拘ったメニュー。</p> <p data-bbox="756 1623 1402 1703">大人の男性でも満足するボリューム満点のランチはとて人気。</p> <p data-bbox="781 1712 1373 1751">お箸は、沖縄特有のものを使用し、どちらも回収。</p>	<p data-bbox="1520 1130 1940 1210">「記憶されなかったムラの記憶 旧稲葉集落跡の歴史」</p> <p data-bbox="1423 1219 2024 1299">かつて西表島の中央部にある浦内川中流域の沿岸に位置していた稲葉村。</p> <p data-bbox="1423 1308 2024 1436">この集落は 1960 年ごろ 1 戸ほどが定着し、西表島の中央部に稲葉という小さな集落を形成していた。</p> <p data-bbox="1423 1445 2024 1754">神々に守られ浦内川に流れ込む水は肥沃な土地を創り出し、その中でも稲葉村の広い水田は肥料をほとんど使わずに米がよく稔り、その収穫量は沖縄一になった事もある。当時の暮らしは経済的にも恵まれていたようで、陸の孤島などという孤独さはなく、壮大な浦内川河川を利用し船での流通が盛んに行われていた。</p> <p data-bbox="1423 1762 2024 1970">しかしながら、豊かな稲葉集落は 2 度による大洪水に見舞われ 1970 年頃廃村となってしまった。特に 1944 年 11 月 11 日に稲葉を襲った大洪水は、大幅な森林伐採が引き起こした人的要因だとも言われている。</p> <p data-bbox="1423 1979 2024 2237">もしくは、昔から浦内川を守ってきた神々の怒りが巻き起こした大洪水だったのかもしれない。神々に守られ栄えた稲葉集落。このツアーのハイライト旧稲葉集落は、この集落の最後の住人となった平良(タイラ)氏が自ら道案内人となり稲葉の暮らしを再現する。</p>